

西区地域子育て支援拠点事業 5か年のまとめ 実施概要

対象事業	西区地域子育て支援拠点事業
対象期間	平成26年度～30年度(5か年)
事業の実施者	特定非営利法人はぐっと
	西区こども家庭支援課
実施目的	<p>1 今期5か年の事業を振り返り、成果や課題、今後の方向性などを整理します。</p> <p>2 市民協働事業の実践を通じて経験を蓄積し、その後の市民協働や市民協働事業に活かします。また、当該協働事業の当事者だけでなく、多くの市民等の協働への参加意欲を高めるため、当該評価を公開し、透明性を高めます。</p>
実施時期	平成30年7月～平成30年9月
実施について	<p>拠点事業は、区と運営法人との協働により進めています。</p> <p>毎年度、事業ごとに定めている「目指す拠点の姿」に沿って役割を分担し、行動計画を立て、年度末には「振り返りの視点」に沿って取組の振り返りを行いながら事業を進めてきました。また、中間期には「有識者を交えた事業評価」を実施し、事業の運営・管理にフィードバックして拠点運営の向上を図っています。</p> <p>今回は、中間期に行った「有識者を交えた事業評価」にその後の事業振り返りを加え、今期5か年のまとめとしました。</p>
	<p>【参考】 拠点の7事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業) 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業) 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業) 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(ネットワーク事業) 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業) 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること (横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業) 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)

1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)		
		法人	区	
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	○拠点での交流を地域に広げていくための工夫や働きかけを行う。 ○外国籍の親子に対して、こんにちは赤ちゃん訪問や乳幼児健診等を通じて、拠点の周知を図るとともに、拠点内の事業につないでいく。 ○利用者のニーズをより深く把握し、居心地のよい空間を提供できるよう検討・改善する。 ○子育て関連施設連絡会や、西区子どもを育てる地域連絡会等の機会を利用して幼稚園と拠点との連携関係を構築し、双方の当事者のニーズを把握・解決に向けた取組みを行う。	A	A	
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。		A	A	
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。		A	A	
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		A	A	
評価の理由(法人)				
(主なデータ) 【H28利用者アンケート(拠点実施)・乳幼児健診アンケート(区実施)】 問:利用者を温かく迎え入れる雰囲気や親子が安心して過ごせるひろばがあると思いますか ⇒あると思う 98%(拠点実施) 90%(区実施) 問:利用して良かったこと ⇒子どもが楽しく遊べた 88%(拠点実施) 71%(区実施) 問:異年齢の子どもの様子を見たり、交流する中で、自分の子どもの成長の見通しを持てるようになった ⇒そう思う 51% ややそう思う 36%(拠点実施) 問:利用中に周囲に困っている養育者がいたら「手伝いましょうか」と声をかけられますか また、自分が困っている時に「手を貸してください」と言えますか ⇒そう思う 46% ややそう思う 39%(拠点実施)				
【利用実績】				
	26年度	27年度	28年度	29年度
【父親の利用】	1,062人	1,235人	1,167人	1,053人
【祖父母の利用】	345人	438人	456人	334人
【プレママの利用】	27人	22人	33人	22人
【ママグラッド】外国につながる親子の日 延べ参加者数:136組(28年度)・66組(29年度)				
【青空子育て】公園あそび 延べ参加者数:241組(28年度)・239組(29年度)				

様式1-1 地域子育て支援拠点事業評価シート

1 居心地のよいひろばづくり

- (1)どんな利用者も笑顔で迎え、利用者の立場に立って、適切な対応と言葉かけに配慮している。
- (2)新規利用者には、利用方法や地域資源等についても丁寧に説明し、他の利用者をつないでいる。
- (3)利用者どうしが遊びや会話を通して、自然に関わりあえるように、遊具や家具の選定・配置等、環境を設定している。

2 多様な養育者への配慮

- (1)外国につながる親子の日「ママグラッド」を当事者が主体となって実施している。
⇒利用者支援事業との連携により、参加者の国籍も広がり、支援が必要な養育者も増えている。
同時に、活動を手伝いたいという保護者からの申し出も増えている。
横浜市国際交流協会との共催により、共通の課題について学びあう講座を開催した。
- (2)「プレママの日」を子育てサポートシステム入会説明会と共に土曜日に実施することにより、夫婦での参加が多くなり、家族全体を視野に入れた支援や提案が可能となった。
プレママ向けのチラシを作成し、区の両親教室、地域の病院等で配布した。
- (3)「スマイルパパの日」を実施し、父親どうしの本音の語り合いの中から、父親の子育て中のストレスについて課題を見出した。
- (4)「双子・三つ子の日」「小さく生まれたお子さんの会」など、共通性のある親子をひろばでつなげ、当事者どうしが支えあえる関係性を作った。

3 日々の会話からニーズを把握

- (1)利用者との日々の会話や相談からニーズや意見を日常的に把握し、事業や講座、ひろばの環境設定に活かしている。

4 親育ち・子育てを支える

- (1)親も子も学びあい、関わりあえる、独自の講座を企画実施している。(ママ育講座、スマイルパパの日、キッズママくらぶ、わが子の育ちトーク、復職応援企画、各種講演会など)
- (2)幼稚園との連携を深めることにより、「幼稚園を学ぶ講座」を区内の全幼稚園の協力のもと、毎年実施し、利用者のニーズに応えている。
- (3)講座の中で、親子を意識的に地域の子育て支援資源につなぎ、フォローを継続している。
- (4)当事者を主体とするサークル活動を支援している。(ちくちく友の会※1、関西人の会、ママグラッド※2)
※1 手芸・工作等で、ひろばの遊具等を作成する会
※2 外国につながる親子の日

評価の理由(区)

1 拠点の状況確認

- (1)定例会や、拠点での赤ちゃん教室の実施時など、区職員が拠点に出向く機会を活用し、利用状況や季節のイベントに合わせた遊具等の配置などについて、確認・共有している。

2 区民の意見の反映

- (1)区役所事業の中でかかわった利用者の意見を定例会以外の場面でも随時情報共有し、対応について一緒に検討した。

3 多様な養育者の利用の紹介

- (1)配慮や支援が必要な親子に関して、拠点の機能を伝え、利用につなげた。
- (2)個別にかかわった多様な養育者(外国籍、シングル、祖父母等)に対しても拠点の利用について紹介を行った。特に、外国につながる親子の日については、区の広報でコラムに掲載する等、周知に努めた。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- 多様なニーズに応えることで、利用者を温かく迎え入れる雰囲気や親子が安心して過ごせるひろばづくりにつながり、継続の利用者が増えている。
- 父親や祖父母の継続的な利用が増え、子どもの遊びをとおして、多世代の交流がみられる。
- 新規利用者が多く、個別の対応が必要な利用者が増えたことによりスタッフのスキルがアップし、多様な利用者どうしをつなぐなど、対応の幅を広げている。

(課題)

- 復職する人が増え、親子の育ちを限られた時間の中で支援できるように、居場所や事業において仕組みを作っていく。
- 他区と比較してプレママの利用登録者数が少ないため、区と協力して仕掛けづくりに取り組む必要がある。
- 土曜日の利用者が増えて混み合っているため、一人一人のニーズに応じていく工夫が必要である。

振り返りの視点

- ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。
- イ 居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。
- ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。
- エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。
- オ 把握されたニーズを区こども家庭支援課や関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。
- キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気付き、学ぶ機会を提供する場となっているか。
- ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	○スタッフ会議や実地見学の機会を活用し、相談スキルの向上を図る。 ○相談環境の改善について、具体的に検討し試行する。	A	A
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

【H28利用者アンケート(拠点実施)・乳幼児健診アンケート(区実施)】

問:スタッフには気軽に相談できる雰囲気がありますか

⇒あると思う 91%(拠点実施) 77%(区実施)

問:利用して良かったこと

⇒スタッフに相談できた 33%(拠点実施) 25%(区実施)

問:スタッフや他の保護者との交流を通して、子育ての悩みや孤立感が減りましたか?(拠点実施)

⇒そう思う 52% ややそう思う 32%

【相談実績】

相談内容	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
1 ひろば相談	1,980件	1,018人	2,071件	1,065人	1,631件	827人	2,112件	867人
2 個別相談	270件	119人	218件	88人	214件	94人	305件	104人
3 子育てパートナー相談			205件	110人	933件	436人	1,250件	504人
合計	2,250件	1,137人	2,494件	1,263人	2,778件	1,357人	3,667件	1,475人

1 日々の傾聴によるスタッフへの信頼感

(1)スタッフは傾聴、受容、共感を基本とし、一人ひとりに寄りそう対応を心がけ、信頼関係を築いている。

(2)相談しやすい方法を養育者が自ら選べるように工夫し、周知している。

(年齢や相談内容に応じた相談日の設定)

(3)利用者支援事業の実施に伴い、相談室の環境を整備した。

2 相談対応におけるスタッフのスキルアップ

(1)法人内及び外部の研修に積極的に参加し、自己研鑽を積める環境を作っている。

3 適切につなぐ

(1)様々な子育て支援機関と連携し、相談内容に応じた支援が受けられるようにつなぎ、フォローしている。

評価の理由(区)

1 相談事業の周知

(1)乳幼児健診や地域子育て支援事業の場で、拠点の広報誌等を用いて相談事業の周知を行っている。

2 相談の質の向上

(1)相談体制や相談内容について、特別な配慮が必要な案件への助言や協力を行った。

(2)拠点での相談内容や傾向について、定例会を利用し共有している。

(3)保育・教育コンサルジュ等の相談を実施し、養育者のニーズに応えるように支援した。

3 継続的な支援

(1)特別な配慮が必要な案件について関係機関へつなげたあとも、拠点と連携を取りながら継続的にフォローを続けている。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

○1期目の課題としてあがっていた相談室の環境を改善した。

⇒音響設備を導入し、相談内容が外に漏れないようにした。

○養育上の共通の特性(こどもの年齢等)を持った養育者をグループで対応することにより、効果的な相談事業になった。

⇒支援者のスキルアップにもつながった。

○子育てサポートシステムが拠点事業になったことにより、ひろばや相談事業との連携が可能となり、相談の幅が広がった。

○身近な相談に丁寧に対応することの積み重ねが、育児支援につながっている。

(課題)

○相談件数や内容について区の特性による課題を抽出・分析し、その内容に沿った支援が必要。

○新規利用者が多い拠点であるが、継続利用者の相談ニーズにも丁寧に対応できるよう配慮が必要。

振り返りの視点

ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。

イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。

ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。

エ 区子ども家庭支援課との連携のもと、各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。

オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、区子ども家庭支援課と相談しながら適切に対応しているか。

カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	○拠点事業の地域展開や情報の周知方法を評価・検討するため、引き続き地域ニーズの把握を行い、拠点と共有する。	A	A
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。		A	A
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。		A	A
評価の理由(法人)			
<p>(主なデータ)</p> <p>【H28利用者アンケート(拠点実施)・乳幼児健診アンケート(区実施)】</p> <p>問:スマイル・ポートのホームページや広報誌は、子育てに関する情報が充実していると思いますか ⇒そう思う 69%(拠点実施) 57%(区実施)</p> <p>問:スマイル・ポートを利用して良かったこと ⇒子育てに関する情報が得られた 27%(拠点実施) 32%(区実施)</p> <p>問:子育てに関する情報をインターネットから収集している ⇒34%(拠点実施) 64%(区実施)</p> <p>問:拠点を知ったきっかけ(区実施) ⇒こんにちは赤ちゃん訪問 37.4%(第1位) 母子訪問 26.2%(第2位) 赤ちゃん教室 22.6%(第3位)</p> <p>【スマイル・ポートつうしんの発行】</p> <p>○毎月2,000部発行 区内全ての子育て関連施設・区民利用施設に配布</p>			
<p>1 受け手にあわせた情報提供</p> <p>(1)「にしく子育て航海図※」を活用し、地域の居場所の様子を伝え、当事者をつないでいる。 ※「にしく子育て航海図」・・・区内の子育て支援機関に関する情報誌(法人受託事業 年間4000部発行)</p> <p>(2)ホームページの情報を随時更新し、スマートフォンで見やすい対応を考える等、内容も充実させている。 (拠点のカレンダー・地域のカレンダー・英語の案内)</p> <p>(3)拠点内の情報コーナーについて、他の利用者を気にせずじっくり見られるよう配置を工夫した。</p> <p>(4)区内幼稚園全園のパンフレット・入園案内をファイリングし情報提供するとともに、幼稚園に関する講座を実施し、入園を考えている養育者からの相談につなげている。</p>			
<p>2 拠点の情報収集・提供機能の周知</p> <p>(1)スタッフが地域の居場所にアウトリーチに出向いた際に地域の情報を把握し、拠点で発信している。</p> <p>(2)幼稚園、保育園、親と子のつどいの広場等と連携し、拠点の内外でパネル展を実施している。</p> <p>(3)乳幼児健診、プレパパママ教室に出向き、拠点の機能等について説明している。</p> <p>(4)区役所キッズスペース(法人受託事業)と連携し、拠点に来られない親子にも拠点と同じ情報発信ができて いる。</p>			
<p>3 当事者・活動者からの発信</p> <p>(1)子育てサークル応援ウィークにて、活動中の当事者から発信できる場を作っている。</p> <p>(2)活動者が自分の活動を伝えるために、拠点内の掲示や配布を積極的に活用している。</p>			

評価の理由(区)

1 情報提供の機会づくり

- (1) 拠点の広報誌である「スマイル・ポート通信」の発行に際し、読み手により伝わりやすい内容になるよう、確認・助言を行った。
- (2) 広報区版の「子育て支援情報」欄において、拠点で実施する事業の周知を年間を通じて実施した。
- (3) 乳幼児健診やプレパパママ教室等において、拠点職員が拠点の機能等についてPRする時間を確保し、周知した。
- (4) 区で実施している関係機関会議(幼稚園・保育園・学校等が参加)において、拠点の情報提供機能を周知している。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- 日常の相談を通じてニーズのある情報を把握し、情報収集・提供ができています。
- 拠点の情報発信機能が地域に認知され、地域から情報が集まるようになっている。

(課題)

- 区内外から寄せられる情報が多岐にわたるため、提供する情報の取捨選択の必要が生じている。
- 区(市)外からの転入者に対して、拠点の機能について、情報提供の機会や方法等を検討する必要がある。

振り返りの視点

- ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。
- イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。
- ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。
- エ さまざまな子育て支援の場に出向いて収集した具体的な情報や、関係機関及びネットワークを通じて得た情報を養育者や担い手に提供しているか。
- オ 拠点の情報収集・提供機能を幅広く区民に周知しているか。
- カ 養育者や担い手から拠点に情報が届けられる仕組みや工夫があるか。
- キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	○5か年で拠点が培ってきたネットワークを活かし、既存の連絡会に参加している団体が、それぞれ当事者として子育て支援を考え、活動を展開していけるよう支援する。 ○区内幼稚園に対して、拠点の存在や役割を伝え、連携できる関係を構築する。	A	B
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。		A	A
評価の理由(法人)			
<p>(主なデータ)</p> <p>【H28利用者アンケート(拠点実施)・乳幼児健診アンケート(区実施)】</p> <p>問:住んでいる地域をより身近に感じたり、地域の人と知り合う機会が増えましたか(拠点実施) ⇒そう思う 35% ややそう思う 41%</p> <p>問:利用して良かったこと ⇒地域の親子の居場所に行くきっかけとなった 20%(拠点実施) 10%(区実施)</p> <p>問:拠点を知ったきっかけ(区実施) ⇒こんにちは赤ちゃん訪問 37.4%(第1位) 母子訪問 26.2%(第2位) 赤ちゃん教室 22.6%(第3位)</p> <p>【地域子育て支援活動者向け研修会の実施を通じたネットワークづくり】</p> <p>(H26)おはなし会読書ボランティア研修 30名 発達障がい理解講座 40名 (H27)事故予防講座 23名 おはなし会読書ボランティア研修 39名 (H28)居場所の防災研修 21名参加 (H29)発達障がいに関する研修 37名参加</p> <p>【地域の親子の居場所へのアウトリーチ】</p> <p>地域子育てサロン等への出張による運営支援 H28年度 157か所 H29年度 169か所</p> <hr/> <p>1 アウトリーチによる信頼関係</p> <p>(1)地域の親子の居場所に向いて活動者との信頼関係を構築している。 (2)地域における活動者が感じている課題を共有し、研修会を実施している。 (3)新規子育てサロンの開設にあたり、具体的な支援を行っている。 (4)区内全ての地域ケアプラザにおいて、ママ育講座を実施している。</p> <p>2 既存の連絡会を活用</p> <p>(1)子育て関連施設連絡会の研究会に参加し、地域子育て支援の手引き「育ちと関わり」を作成。 (2)ひろば連絡会を実施し、親と子のつどいの広場との連携を強化。 (3)自立支援協議会に参加し、障がい児の支援について連携を強化。 (4)区社会福祉協議会の活動(こども食堂のネットワークづくり)に、拠点におけるこれまでのノウハウを提供する等の協力を行っている。</p> <p>3 当事者を地域につなぐ</p> <p>(1)ママ育講座に参加した0歳児をもつ親子を地域の居場所に同行してつなぐことにより、親子の利用が定着している。 (2)キッズスペースや子育てサポートシステムなど、他の子育て資源や制度につないでいる。 (3)区内全ての幼稚園と連携し、合同で説明会を開催するなど、活きた情報を共有している。 (4)区内の親子の居場所へアウトリーチすることで、当事者の地域での様子を把握している。 (5)子育てサークルの活動を地域施設につなぎ、連携のきっかけを作っている。</p> <p>4 地域企業との連携</p> <p>(1)地域の企業と共催で事業等を実施し、当事者の声と子育て支援の必要性を社会に伝えている。</p>			

評価の理由(区)

1 各機関の周知

(1) 子育て関連施設の機能を掲載した情報(子育てマップ・「にしく子育て航海図」)の製作および配布を行い、拠点を中心とした区内の子育て支援会場の周知を行った。

2 関係機関との関係づくり

- (1) 子育て関連施設連絡会への幼稚園の参加を促し、子育て支援機関同士のネットワークづくりを行った。
- (2) 定例会等を通じて地域ごとの課題や子育て支援の需要を共有し、新たな地域子育てサロンの設立につなげた。
- (3) 拠点と地域子育てサロン等との連携に関する区役所の役割が不明確だった。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- 地域の活動者が支援活動における課題等について、助言を求めてくるようになった。
- 地域子育てサロンの設立に向けて、開設日、遊具の選定、環境の設定等について相談を受け、立ち上げを支援し、開設後もフォローしている。
- これまで課題となっていた幼稚園との関係について、合同での講座を開催する等、良好な関係を築くことができた。
- 保育園・幼稚園・区社会福祉協議会など、関係機関との顔の見える関係が構築できている。

(課題)

- 地域特性や地域課題を区と拠点で共有する機会がなかった。地域の特性に応じた支援方法を検討していく必要がある。
- 区として、ネットワークの構築・推進に向けての立場や役割を分担し、適切な支援を進めていく必要がある。

振り返りの視点

- ア 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、連携促進に取り組んでいるか。
- イ 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。
- ウ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。
- エ 養育者を身近な地域の子育て支援の場につなげているか。
- オ 子育て支援活動に関心のある方を丁寧に受け止め、必要に応じて身近な地域の活動へつないでいるか。

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができている。	○地域の担い手の声を聞きながら、それぞれの地域活動の目的、親子への関わり方、活動の意義や、拠点の役割について伝えていく。	A	A
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		B	B
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		A	A
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		A	A
評価の理由(法人)			
<p>(主なデータ)</p> <p>【H28利用者アンケート(拠点実施)】(再掲) 問:利用中に周囲に困っている保護者がいたら「手伝いましょうか」と声をかけられますか。 また、自分が困っている時に「手を貸してください」と言えますか。 ⇒そう思う 46% ややそう思う 39%</p> <p>【子育て支援活動者 利用人数】 (H26)504人 (H27)486人 (H28)557人 (H29)710人</p> <p>【夏休み中学生ボランティア】 (H26)40名 (H27)43名 (H28)39名 (H29)38名 西区内の全中学校から参加あり</p> <p>【見学・実習受け入れ】 (H28)10校から65名 (H29)8校から70名</p> <p>【ひろばサークル】 関西人の会 のべ参加者数:(H28)39組 (H29)43組 ママグランド のべ参加者数:(H28)136組 (H29)66組</p> <p>【サークルリーダー研修】 (H28) 実施回数:2回 参加組数:24組 (H29) 実施回数:2回 参加組数:20組</p> <p>【お話し会ボランティア】 (H28) 実施回数:8回 参加団体:3団体 (H29) 実施回数:9回 参加団体:3団体</p> <p>【英語の手遊び】 (H28・H29) 実施回数:2回/月 活動者:3人</p>			

様式1-5 地域子育て支援拠点事業評価シート

1 アウトリーチで活動者を支える

- (1) 当事者の生の声、区内や市域での子育て支援の動向を迅速に伝え、区内の子育て環境を地域活動者と共につくっている。
- (2) 地域の活動者の困り事には、できる限りその場で対応し、共通課題に対しては区域の研修会を実施している。
- (3) 拠点のスタッフがすべての子育てサークルを訪問し、活動の様子を把握するほか、PRや活動等について、地域の子育て支援施設等と連携し、支援を行った。
- (4) 新設の子育てサロン、親と子のつどいの広場等のスタッフを対象に研修を実施した。

2 養育者から活動者へ

- (1) 拠点利用者が、わが子の成長とともに、地域の活動者として関われるように、様々な子育て支援資源(地域子育てサロン・区役所キッズスペース・おはなしボランティア・子育てサポートシステム両方会員・地域ケアプラザ・子育てサークル等)につないでいる。

3 当事者の声を地域づくりへ

- (1) 地域福祉保健計画、自立支援協議会、地域子育て支援の手引き作成の研究会等において、当事者の声を代弁し、地域づくりに活かしている。

4 学生との協働

- (1) 多くの学校から見学・実習を受け入れることにより、多様な世代が拠点を利用し、地域子育て支援に関する学びあいの場となっている。また、ボランティア体験をした学生から、新たな学生へとつながりが広がっている。

評価の理由(区)

1 現在・未来の担い手や子育て当事者への支援

- サークルリーダー研修を拠点と協力して実施し、サークル活動に関する実践的な支援を行った。
- 地域の活動者への運営支援にかかわる研修会を拠点と協働で毎年実施した。(防災、誤飲等、事故対応)
- 中学生のボランティア体験について、学校との調整(校長会に出席し協力依頼等)を行っている。
- 母子健康手帳の交付時や、プレパパママ教室の開催時等に拠点事業を案内し、これから子育ての当事者になる方がスムーズに拠点を利用できるよう周知した。

2 広く市民への働きかけの実施

- 広報区版に毎月子育て情報欄を設け、子育て事業の周知を行った。
- 西区内の子育てマップを作成し、ホームページ上での公表や配布を行うことで子育て支援施設等の紹介を行った。
- 子育てについて考え、学ぶ機会の創出を目的として、子育てに関する講演会を開催した。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- サークルリーダー研修の全体研修への区内のサークルの参加率が100%に近い。
- ボランティア団体が増え、定例で活動が行えている。

(課題)

- サークルリーダー研修等を通じて、地域の自主的な活動に結び付けていく必要がある。
- 幅広い世代の方々を積極的に受け入れ、拠点や地域で活躍する機会作りが必要である。

振り返りの視点

- ア 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。
- イ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。
- ウ 新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。
- エ 活動希望を丁寧に受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。
- オ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。
- カ 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。
- キ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。
- ク 子育て家庭(妊娠期の方を含む)を温かく見る気持ちを持つことができるように働きかけているか。
- ケ これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	自己評価(A~D)	
	法人	区
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	B	B
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。	A	A
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。	A	A
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。	A	A
評価の理由(法人)		
<p>(主なデータ)</p> <p>【H28利用者アンケート(拠点実施)・乳幼児健診アンケート(区実施)】 問:子育てサポートシステムの認知度 ⇒知っている 82%(拠点実施) 61%(区実施)</p> <p>【会員数の推移】 (移管時H26.10)117人(利用:83 提供:27 両方:7) (H27.10)176人(利用:129 提供:38 両方:9) (H28.10)291人(利用:230 提供:47 両方:14) (H29.10)311人(利用:254 提供:42 両方:145)</p> <p>【入会説明会(実施回数/参加人数)】 (移管前H25)6回/34名 (H26)55回/142名 (H27)78回/207名 (H28)97回/223名 (H29)91回/208名</p> <p>【活動件数】 (移管前H25)497件 (H26)523件 (H27)1,024件 (H28)1,016件 (H29)1,230件</p> <p>【コーディネート件数】 (H26)34件 (H27)79件 (H28)82件 (H29)143件 *コーディネートはほぼ100%成立</p>		
<p>1 拠点移管による会員数の増加</p> <p>(1)地域のイベント、拠点の他の事業やネットワーク等様々な機会を活用して事業周知を行い、会員が増加した。</p> <p>(2)地域の施設等において出張説明会を開催し、拠点に来られない人にも対応している。</p> <p>(3)利用者の状況にあわせて、個別説明に柔軟に対応している。</p> <p>(4)提供会員予定者研修会を拠点で実施し、新たな人材を育成している。</p> <p>2 養育者のニーズへの柔軟な対応</p> <p>(1)ニーズや状況に合わせ、柔軟に個別説明やコーディネートを実施している。</p> <p>(2)入会説明会を平日と土曜に開催し、参加しやすい工夫をしている。</p> <p>(3)ニーズに応じ、拠点内での預かりに対応している。</p> <p>(4)他の支援制度を利用できない狭間のケースに、関連機関等と連携しながら丁寧に対応している。</p> <p>3 きめ細やかなコーディネートとフォロー</p> <p>(1)配慮が必要な養育者や、新規の提供会員の活動を支援するため、コーディネーターの同行援助や、電話や面談によるきめ細やかなフォローを行っている。</p> <p>(2)提供会員の研修・交流会を少人数で複数回開催し、日頃の活動について考える機会を提供した。</p> <p>(3)地域ケアプラザと共催で小児救急の研修会を実施し、事業の周知と会員のスキルアップをはかった。</p> <p>4 地域の子育て資源につなぐ</p> <p>(1)区内の様々な子育て資源や民間のサービス等の情報を提供し、養育者が自ら決定できるように支援し、つないだ後もフォローしている。</p> <p>(2)他区のコーディネーターや関係機関等と連携し、区域を超えた相談にも対応している。</p> <p>(3)子育てサポートシステムと他の支援制度の狭間のケースについて、関連機関と協議し、対応している。</p>		

評価の理由(区)

1 課題共有

(1)説明会や交流会の実施状況、周知状況について定例会にて課題を共有し、助言を行っている。

2 事業の周知

(1)母子訪問や地域での赤ちゃん教室、乳幼児健診等の区事業を通じて、子育てサポートシステムの周知を行っている。

(2)小・中学校の入学説明会の配布資料に子育てサポートシステムのちらしを封入し、PRを行った。
また、区のPTA協議会においても、ちらしの配布を行い、提供会員募集の声掛けを行った。

3 事業の支援

(1)特別な配慮が必要な場合の対応方法について、助言や支援の協力を行っている。

(2)子どもの預かりに関する子育て支援情報(一時保育等)をコーディネーターに情報提供している。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

○会員数が増えている。

⇒丁寧な説明を心掛けている成果が出ている。

○利用者のニーズに対して高い割合で対応ができています。

(課題)

○子育てサポートシステムの認知度をどうあげていくか。

⇒特に拠点等に行かない人たちに対してどう周知していくか。

○特定の提供会員に頼っている現状がある。より多くの提供会員の登録を促すため、拠点・区ともに事業の周知を行う。

振り返りの視点

ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。

イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。

ウ 養育者に対して、必要時に利用相談しやすく感じられるような周知活動等の工夫をしているか。

エ 会員が相互の合意のもとに気持ちよく安全に活動できるよう、会員の状況に応じた活動方法の提案や、丁寧なコーディネートができていますか。

オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や会員のフォロー、追加のコーディネート等を行っているか。

カ 提供・両方会員が活動の意義を感じながら、安心・安全な活動を継続して行えるよう、研修会等の取組がなされているか。

キ 会員の活動意欲を高めるため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。

ク 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を促進する取組がなされているか。

ケ 会員間で授受される個人情報会員が適正に取り扱うことが出来るよう、注意喚起や研修等の取組がなされているか。

コ 援助活動の調整等を通して把握した子育てに関するニーズを、必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。

サ 専門的対応が必要と考えられる相談について、こども家庭支援課との連携、連絡体制のもと、適切に対応しているか。

シ 子育てサポートシステム以外の子育てに関する相談に対して、情報提供等の支援ができていますか。

7 利用者支援事業

目指す拠点の姿	自己評価(A~D)	
	法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民に認知されている。	B	B
②個別相談に応じ、適した選択肢の提示や養育者主体の選択の支援、必要に応じた支援窓口等の案内や仲介を行っている。	A	A
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。	A	A
評価の理由(法人)		
<p>(主なデータ)</p> <p>【H28利用者アンケート(拠点実施)・乳幼児健診アンケート(区実施)】 問: 横浜子育てパートナーの認知度 ⇒知っている 33%(拠点実施) 20%(区実施)</p> <p>【子育てパートナー相談件数】 (H27)205件/110人 (H28)933件/436人 (H29)1,250件/504人</p> <p>【アウトリーチ件数】 (H27)3件 (H28)55件 (H29)74件 (子育てサロン、青空子育て事業、親と子のつどいの広場等)</p> <p>【研修(局主催の必須研修を除く)】 (H27)2回 (H28)24回 (H29)20回</p>		
<p>1 区域での周知活動</p> <p>(1)拠点のネットワークを活用し、区内の関連施設や乳幼児健診等の区事業で子育てパートナーのカードやチラシを配布し、相談利用のきっかけを作っている。</p> <p>(2)拠点に来られない親子への支援として、拠点のネットワークを活かして地域の居場所にアウトリーチし、相談につないでいる。(親と子のつどいの広場にて毎月出張相談会を実施)</p> <p>(3)区内の関連施設、機関との連携ができるよう、各種連絡会等に参加し、パートナーの機能と役割を伝えた。</p> <p>(4)拠点の通信に毎月掲載している。</p> <p>2 多様な相談体制</p> <p>(1)ひろばスタッフと連携し、ひろば相談から子育てパートナーにつなぎ、継続的にフォローできる体制を構築した。</p> <p>(2)安心して相談できる環境を作るために、相談室の環境を整備した。</p> <p>(3)個別相談、電話相談、出張相談に対応するなど、多様な相談方法を提示し、利用者が選択できるようにしている。</p> <p>(4)他の利用者を気にせず、じっくり情報を見られるコーナーを工夫し、個別の相談につなげた。</p> <p>3 相談者に寄りそい、家庭全体を支援</p> <p>(1)相談者に寄りそい、信頼関係を築きながらニーズを探り、他の制度や地域資源を紹介し、必要な支援につないでいる。</p> <p>(2)多様な制度、支援、サービスの中から、個々のニーズに適した選択肢を提示し、利用者の選択を尊重している。</p> <p>(3)相談専門のスタッフ(子育てパートナー)が配置されたことにより、相談を目的とした来所者が増え、予防的な効果が見られる。</p> <p>(4)相談者だけではなく、家庭を単位として支援を考え、必要に応じ専門家のスーパーバイズを受けながら対応している。</p> <p>(5)多様な親子を支えるために、当事者どうしのつながりのきっかけを作り、支えあえる関係をサポートしている。</p> <p>4 つなぎとフォロー</p> <p>(1)地域の親子の居場所等に出向き、拠点に来られない親子を地域の居場所で継続的にフォローしている。</p> <p>(2)拠点の居場所機能を活かし、日常の些細な変化にも着目できるように、ひろばスタッフと連携して支援している。</p> <p>(3)相談者のニーズに応じた支援機関について情報提供し、その後も継続的にフォローをしている。</p>		

評価の理由(区)

1 区民と関係機関への周知

(1)こんにちは赤ちゃん訪問員の定例会や地域ケアプラザ連絡会、子育て関連施設連絡会等の既存の連絡会を活用し、関係機関や地域の担い手に対して利用者支援事業の説明や子育てパートナーの紹介を行っている。

2 子育てパートナーのスキルアップ

(1)定期的に相談状況や内容の報告を受ける場を設け、子育てパートナーが適切な支援を行えるように助言するとともに、必要に応じて連携しながら支援を行った。

(2)子育てにかかわる制度(予防接種等)の見直し等に係る情報を提供している。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

○子育てパートナーを配置したことで、今までの拠点では支えられなかった様々な家庭事情の相談も増えてきた。

○区内の関係機関への案内や仲介を行う際に、子育てパートナーとして顔が見える関係ができてきたことにより、的確な対応ができるようになった。

○出張相談を実施することにより、地域の親子の居場所の利用者と担い手から、地域子育て支援拠点を身近に感じてもらえるようになった。

(課題)

○アンケート結果で子育てパートナーの認知度が低いため、区民への認知度向上に向け、拠点・区ともに引き続き周知を継続していく必要がある。

○障害児等特別な配慮が必要な案件については、区との連携を深め、さらにスキルアップしていく必要がある。

振り返りの視点

ア 利用者支援事業を幅広く区民に周知しているか。

イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。

ウ 常に最新の情報を収集し、提供しやすく整理しているか。

エ どのような相談に対しても、相手に寄り添い傾聴し、養育者の主体性を尊重した相談対応を行っているか。

オ 関係機関等への案内・仲介する場合、先方へ事前に連絡するなど、円滑かつ確実に利用できるような支援をしているか。

カ 関係機関へ案内・仲介した後も、役割分担に応じて継続的な関わりをもっているか。

キ 相談の対応状況や支援策の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点から振り返りや検討を行っているか。

ク 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源(インフォーマルを含む)との間で、利用者支援に関連する情報の共有や関係性の強化を図っているか。

ケ 専門的な対応を要する相談については、内容に応じて速やかに関係機関に案内・仲介する等、適切な対応を行っているか。

コ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実や、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整や提案につなげているか。